1. 自立支援につながる課題分析について

【点検で気づいた点】

「歩行器を使いたい」「安心して生活ができる」「〇〇のサービス利用が必要」といった、利用者及び家族のサービスにおける要望や困りごとが主な計画内容となっており、自立につながるサービス提供となっているのかが読み取れないプランが見受けられました。

【留意事項】

・ケアプランは、利用者の「要望」に沿うサービスを単に記載したものではなく、利用者がこれからの自立した生活に向けて希望が見出せる計画書にしましょう。

・利用者が自立した日常生活を営むことができるよう支援するためには、「解決すべき課題」がきちんと押さえられているか確認しましょう。

【ここに気を付けましょう】

・利用者及び家族の抱える問題点や困りごとに対して、安直にサービスのみで対応するというのではなく、利用者及び家族とともに、その問題や困りごとの本質（原因や背景）や、解決するためには何が必要なのかを明らかにしていく過程が大切です。

・利用者がどのような生活を送りたいと考えているか（暮らしの中で特に継続したいことや重視したいこと等）について本人の言葉や、本人が家族等に表明している意思を基に具体的に記載しましょう。

・利用者の心身の状態にとどまらず、利用者を取り巻く家族関係や社会的交流、経済状況、住環境、地域の資源や環境など、利用者の生活全体を把握しましょう。また、それらの関連性を分析し、生活課題の形成プロセスや要因を明らかにし、課題解決のプロセスや方法を利用者や関係者とともに話し合い、課題解決にむけた目標やサービス内容を計画しましょう。

・状況の変化に応じて追記し、更新しましょう。また居宅サービス計画の変更時には、新規作成時と同様、再アセスメントを行いましょう。